

エコレザーの豚革の魅力を生かした PBによる製品づくりに挑戦中です

出席者

石田 美和 氏(三恵産業(株) エグゼクティブプロデューサー)

吉村 圭司 氏(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

稲次 俊敬 氏(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

豚革の一貫生産の技術力を 85年以上かけて築き上げる

吉村 本日は東京・墨田区のタンナーの三恵産業株式会社の石田美和さんに登場いただきました。

三恵産業様は、ビッグスキンの鞣し、染色・加工を一貫して製造しています。鞣し工程は姫路工場(兵庫県たつの市)で行っています。この企業では日本エコレザー基準認定を受けたビッグスキンを生産しています。初めに社歴からお聞かせください。

石田 当社は1930年、祖父が創業し、1971年、父が社長に就任しました。

創業以来85年以上かけて築き上げてきたのが、ビッグスキンの鞣し、染色・加工の技術と信頼です。創業当時は牛革も扱っていましたが、現在は豚革に特化しています。

私が入社したのは5年前。当社の革がどのような製品になるか、大変興味がありました。技術者にとっても、製品の企画や加工を行うことは開発の励みにもなり、当社の革を使ってそのまま製品にしようと考えました。

そして、製品化を手掛けてから1年後に製品を提供できるようになりました。そのファクトリーブランドは『チエトラ』で、イタリア語でインスピレーションという意味です。

稲次 製品化にあたっては難しい部分があったのではないのでしょうか。

石田 豚革の特徴として傷が多いので、革の傷を隠したり、傷を生かしたりしないといけない部分があったりですね。ヌメの鞣しの中で、200枚中、傷が目立たないのは20枚程度しかありません。良質なものがもっと増えればよいのですが、なかなか難しい課題です。

吉村 革の傷は副次的なものという考え方になればよいのですが、日本人には傷の無いきれいな革しか受け入れられない考えがあります。傷の存在も天然皮革である証しとして大事な部



エコレザーの話で盛り上がる



日本エコレザーの6つの条件

- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅ろう度が基準値以上

※染色堅ろう度とは、染色された色が摩擦や使用条件にどれだけ耐えるかの指標



ファクトリーブランド『チェトラ』のバッグたち



石田美和氏



経年変化を楽しむタンニン鞣しヌメの靴

分とする哲学にしていくなことが重要なところだ。

稲次 ピッグスキンのよさはどのよう
なところなのでしょう。

石田 通気性、透湿性、軽さ、摩耗強
さは豚革の最大の魅力です。豚革はラ
イニング(裏材)のイメージが強く、牛
革よりやや低い位置に見られている傾
向があります。もちろんライニングと
して豚革は重要ですが、ライニングだ
けではなく、美しい革として、衣料、バ
ッグ、革小物などにも使えるところを

訴求していきたいと思っています。そし
て、ライニングだけというイメージを
変えていきたいと考えています。

日本で完全に自給できる唯一の革素
材がピッグスキンなので、その部分を
大切にしていきたいですね。現在では、
技術や薬品が進歩しているため、シル
クに近いようなピッグスエードやプリ
ント加工も凝ったものができるよう
なっています。そのあたりを強く提案
していきたいですね。

人と地球に優しい エコレザーの安心、安全に注目

吉村 エコレザーの生産についてはい
かがですか。

石田 私が入ってから、植物タンニン
鞣しを進めています。クロム鞣しのよ
うな重金属を使わないし、また、有害
物質を使わないので、人と環境に優
しいのが魅力です。鞣しに要する工程
や手間はかかりますが、その分、繊維
が密で張りがある丈夫な革に仕上が
ります。工程が複雑なため、気候や温
度などの条件により、一枚の革の中
にも表情の違いが起きますが、熟練の
技術と、努力を惜しまずくり返し行わ
れる試作により、高い品質の味わい深

い革になっていきます。

さらに、ライニング用レザーにおい
ても日本エコレザー基準に適合する革
を作っています。革の鞣しにおいて人体
の必須元素のひとつであり、無害な「三
価クロム」を使用しています。現在で
は、焼却の方法や施設も進歩してお
り、六価クロムの発生はなく、可燃ごみ
として焼却がされています。また、当社
では、エナフレザーと言っていますが、
六価クロムにならないような処理も
行っています。

今後、アレギー物質はますます重
要視されてくるキーワードで、「安心、
安全な革」を提供するのは私たちの役
割だと思っています。将来を見ると、消
費者はエコレザーのような安心で安全
な革への関心が高くなって、主力になっ
ていくのではないかと予想します。

稲次 エコレザーを使ってどのような
製品を作られているのでしょうか。

石田 タンニン鞣しのアメ豚やソフト
アメ豚を使って、財布や手帳カバー、バ
スケース、カードケースなどの小物類
から、ワンショルダーバッグやリバーシ
ブルトートバッグなどのバッグ類など
多彩なものを製品にしています。
ファッション性だけでなく、現在は機



稲次俊敬氏



吉村圭司氏



スエードは常時44色あり、オンラインサイトで1枚から購入可能

能性も重要です。そこで、撥水加工スエードを開発しました。これは当社が時間をかけて開発した特殊なレザーで、革を鞣す一連の工程において水や汚れをはじく特殊な撥水加工を施しています。

この撥水加工スエードをリバーシブルトートバッグの内側に張っていて、オイルレザーという贅沢なつくりなのに、ビッグスキンならではの超軽量な快適さを持っています。さらに、バッグの中で水をこぼしても大丈夫なように工夫されています。また、染色をしていない素上げのまま

まのクラフトヌメのシューズなどにも取り組んでいます。ユーザーが好みの色に染めたり仕上げたりすることもできます。また、ぬめ革特有のエイジングすることで色の変化が楽しめる、自分で育てていくような感覚を持てる小物類ができれば良いかなと考えています。

ファクトリーブランドとして育て、OEMにもつなげたい

吉村 製品はどのようなところで販売されていますか。

石田 セレクトショップやオンラインサイトで販売しています。イタリヤではファクトリーブランドが浸透していますが、日本ではまだこれからです。『チエトラ』も欧米で見られるような世界に通じるファクトリーブランドに育てていきたいと思っています。

製品化を進めているのは、当社の豚革を使ってこのような製品ができるという提案と共に、素材のOEMにつながついていければと考えています。まだまだ豚革はライニングだけだと思われている方々に、このような高い品質の、軽く、柔らかく、通気性が良

い革ができることを知っていただければよいかと思えます。

稲次 今後はどのようなことに取り組んでいきたいと思われませんか。

石田 豚革の魅力をもっともって皆様を知っていただきたいということです。

現在、オンラインサイトからライニングは常時20色前後、スエードは常時44色の在庫を持っていて、1枚から販売中です。工場直販ならではの価格で提供させて頂いております。

アジア諸国の発展に伴い、国内の製造業は工場を海外へシフトするなど大変厳しい状況に置かれています。しかし、日本人の繊細な技術力、製造力はまだまだ世界最高水準にあり、長年かけて培ってきたそのノウハウを改善革新していく手法も簡単に他者が真似できるものではありません。

製造業の原点である「ものづくり力」の強化に立ち返っていききたいと思えます。日本には伝統工芸的な様々な技法がありますから、それらを取り入れながら、もっと価値の高いものへの開発にチャレンジしていききたいと考えています。